

# 令和7年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立雑賀崎幼稚園

## 教育目標

ゆめ	重点目標	具体的取組	取組の状況
夢中になって遊ぶ子供を育てる	身近な人との関わりを通じた豊かな学びが生まれる環境をめざして	夢中になって遊べる環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供たちが遊び込むことができるように時間の確保や環境構成に努めた。その中で考えたり試したり、発展させたりできるように環境の再構成に取り組んだ。感動や発見、驚きなどの感情を自分なりに表現しながら、いきいきと遊ぶ姿が見られている。</li> <li>・プレイルームには、様々な素材(画用紙、テープ類、マジック、空き箱、カップなど)を子供の手に取りやすいように配置したり、園内の自然を取り入れたりしながら、子供の思いが満たされる環境構成に取り組んだ。</li> <li>・「環境図」を作成し、毎月全職員で見直して、その時の子供の遊びに必要なものを準備したり、不必要なものを片づけたりすることで、子供が遊びに没頭できる環境に近づけることができた。</li> <li>・園庭にはブルーベリーや金柑、レモンなど実のなる木や、四季を感じることができる草花を育てている。畑ではナスやキュウリ、スイカや大根など様々な野菜を栽培し四季折々に触れたり、香りを感じたり、食したりすることで豊かな体験に繋がっている。</li> </ul>
		身近な人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数園であることをいかし、互いに刺激し合って遊びを発展させることができるように取り組んでいる。</li> <li>・幼小の教師同士が子供の様子や授業時間を共通理解しているので、休憩時間には小学生が園庭に来て自然と関わって遊ぶ姿も見られている。</li> <li>・一人一人の子供の遊びの様子や育ちを丁寧に見取り、職員間で共有し子供理解を深めている。個々に応じた援助をすることで、その子供の良さを十分に伸ばすことができるように努めている。</li> <li>・子供の主体性を育むために、教師の援助の仕方やタイミングに気を付けながら保育に取り組んでいる。</li> </ul>
		地域や連携保護者との	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栗拾い消防団見学、吊るし柿作りなど地域の方々のご協力をいただきながら取り組むことができた。子供たちが校区雑賀崎に親しむことができるように、出かける機会を増やし、経験したことや楽しかったことを子供たちの心に積み重ねられるように「マップ」を作成した。保育室に常に掲示していることで、子供たちが地域のことについて話をするようになった。</li> <li>・登降園時に子どもの様子を伝え、子供の成長の過程を共有してきた。必要に応じて専門機関と繋がり保護者が安心して子育てができるよう取り組んでいる。</li> <li>・個人懇談では子供の遊びの様子や友達とのかかわり、個々の発達段階などについて伝え、保護者が理解しやすいように工夫をしている。</li> </ul>

### 保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

- ・アンケートの「園全体の教育力について」子供一人一人を大切にしながら、全職員で協力し合い援助の仕方や保育について考えてきたことで、11項目中9項目において(とても思う)の評価をしていただくことができた。
- ・幼小一貫教育について、保護者に園だよりや行事の際などに伝えてきたことで昨年より評価が上がり、「あまり知らない」の回答が0%になった。よりわかりやすく伝えるために、パンフレットや配布物の内容を精査していくことが課題。
- ・昨年より園児数が減少したことで、同年齢のかかわりが難しくなり、「交流する場を日頃からもち、人とかかわりを楽しめているように思う」の項目が(そう思う)にとどまってしまった。園児数増加が課題。

### 今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

- ・今年度、地域の豊かな自然を保育に活用する取り組みとして地域に出かける機会を多くすることで、地域の方々ともふれあい幼稚園を知っていただくきっかけにすることができた。また地域の方の協力で、雑賀崎の名産「アジアカエビ」と子供たちの育てた野菜を交換していただくことができ、交換するまでの過程や地域の方との関わりは子供たちの豊かな経験になりたくさんの学びに繋がった。
- ・小学校と幼小一貫教育事業を進める中で、活動内容を深めるために、目的やねらい、小学校のどの教科、単元のものかを共有できるように努めてきた。職員間の幼小一貫教育の意識が向上した。
- ・園児数を増加させることが大きな課題である。今年度、幼小一貫教育事業について作成したパンフレットを各コミュニティセンターや保健センターなど様々な場所に配置したり、取り組みをもっと知ってもらうために説明会を開催したりした。来年度の入園児数は昨年度より増えたが、引き続き効果的な広報の方法を検討していくことが課題である。

### 学校関係者評価委員による自己評価の検証

- ・幼小一貫教育の充実により、世界に羽ばたく人材の育成が実感できます。楽しみです。
- ・園庭や畑の環境がとても素晴らしく、園児が野菜を食べられる子に育っていると感じます。「自分で育て、調理して、頂く」学びを続けてほしいです。
- ・地域の方々との交流が多く、大変すばらしいと感じています。雑賀崎の地方創成を考える大学生との交流も雑賀崎の特色として取り入れていけたらよいのではないかと思います。
- ・幼小の活動に「共同作品制作」があると、年上の子から教えてもらったり、小さい子の自由さを思い出したりできて創作の幅が広がり、協力して喜びを倍増させる取り組みとなって楽しいと思います。